

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 3 月 28 日

札幌市立 東園小学校

1 今年度の重点目標

「夢いっぱい 笑顔いっぱい あいさついっぱいの学校」

2 今年度の経営方針

- すべての教育活動で「自分から 自分のために みんなのために」をキーワードに推進する
- ・「学ぶ力」自ら学び続けようとする意欲と学びの調整力を高める
  - ・「豊かな心」: 自己有用感を高め、思いやりの心と規範意識を育てる
  - ・「健やかな体」: 基本的生活習慣の確立と体力・運動能力の向上を図る
  - ・「情報を共有し協働する教職員」で学校改善を図る(組織的対応、安全教育の充実、異校種・地域との連携)

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	①心の豊かな子 ②仲良く助け合う子 ③よく考え行動する子 ④最後までがんばる子 ⑤進んで体をきたえる子	○自分を信じ、自分で考えることは楽しいことだと感じることができたか ○成長し、認められ、学校は楽しいところだと感じることができたか	A	子どもが自分からみんなのために動けるよう、全職員で共通理解をし、知恵を出し合い、教育活動を工夫しながら、一丸となって取り組んでいきたい。特に、子どもたちの自治的な活動の充実に図りたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		子どもが自ら行動しようとする意識を高めるための教育活動を行おうと教職員が工夫をしていることがうかがえる。今後も、その取組を継続して行ってほしい。				

■■■ Iーさ C小つ Tこぼ をーろ 活貫つ 用し子 したー た教学 教育び 育ーの のの推 進進ス 進進ス メの情 報種活 用用育 育連携 ( )	調和のとれた体育のち	学ぶ力の育成	主体的・対話的で深い学びが得られる授業の構築	自分の考えをもち、進んで解決できる力は育ったか	A	目指す資質能力を明確にし、どのような手立てで授業を行うのか、日々の学年研修、教科研修などの充実に図っていききたい。	A	A
		豊かな心の育成	互いの気持ちや考えを認め合う姿勢から人間関係形成能力の向上	自分を大切に、相手を思いやり大切にすることができたか	A	一人一人を大切に、他者から学び合う対話による学びを充実させることで、自己承認と相互承認の感度を上げていききたい。指導の系統性を考え、共通の指導をしていききたい。	A	A
		健やかな体の育成	楽しく進んで運動やスポーツに親しみ、体力作りと健康に対する知恵・実践力を身に付ける	健康な体づくりのために、継続して安全に運動したり、学んだりする態度は育ったか	A	健やかな【心】と【体】を育むというねらいを明確にもち、そのために、運動に対する教材観や心のしなやかさを育む指導観を磨き、場の設定を工夫していききたい。	A	A
		札幌らしい特色ある学校教育	学びの基盤となる【読書】	読書に親しみをもち、活用できる教育環境を整えることができたか	B	読書は子どもの生涯にわたる学習活動の基礎となるものであり、言語能力・表現力・創造力を育む重要なものなので、全校で取り組んでいきたい。	A	A
		子どもの発達への支援	的確な児童理解に基づく、案じて楽しく過ごせる環境づくり	子どもの気持ち・心を温かく受け止め、子ども理解に基づいた指導に努めることができたか	A	子どもの声をしっかりと聴き、受け止め、信頼関係を築き、相談しやすい雰囲気を作り、全校で子どもの声や表情・態度などにアンテナを高く張っていききたい。さらに情報の共有に努めたい。	A	A
		信頼される学校の創造	家庭や地域とともに進める学校づくり	連携や情報発信を通して、保護者・地域に子どもの育ち見える学校となっていたか	A	時間割とその週の子どものよさや成長、頑張りやHPに挙げ、保護者に学校教育活動を分かりやすく伝えることができるよう努めていききたい。	A	A
		教科等の枠組みを越えた教育	人間尊重の教育	子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりに努めていたか	A	自分を承認する機会を増やし、一人一人が自分のよさや可能性を気付いていけるような教育活動に重点を置いて、全校で取り組んでいききたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		地域の町内会行事が衰退する現状ですが、子どもたちが地域の中で生き生きと過ごしていけるように活動を進めていますので、御協力をお願いします。子どもたちの挨拶がよくなっていると感じる。日常の教育活動が、効果を発揮していると思われるので、今後も継続した指導をお願いしたい。						

学校独自に設定する分野	業務改善・働き方改革	A	教員が子どもに向かう時間の充実が、子どもの豊かな成長につながる。工夫できる部分を洗い出し、出来ることから取り組んでいきたい。	A	A
	「小中一貫した教育」の推進(校種間連携)	A	幼保小も、小中も、情報共有に努め、計画的に取り組んでいきたい。	A	A
	ICTを活用した教育の推進(情報教育)	A	ICT交流会の継続や、授業での活用方法を確立、例示、ネットモラル年間計画の進捗状況を定期的に確認など、計画的に取り組んでいきたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		ゲーム・ネット依存に陥らないように、子どもたちが自己管理できるような指導をお願いします。小中一貫教育では、日章中学校との交流が効果的に進められていると思います。学校の熱心な取組に、共感できる場所は大きい。地域としても、引き続き、協力していききたいと考えている。			